

News Letter

夕日に染まっていた街中が、薄暗くなり始める黄昏時。道弘分教会(高野二男会長)の神殿に数人の子供たちが座って、夕づとめが始まのを待っている。「3人の娘の中でも、特にひまりはこれまでに数えられないほどの友達を夕づとめに連れて来ている」と、高野知永子さん。毎日ではないが、たくさんの子供たちが教会を出入りする。



写真左上が表良貴くん

知永子さんには、麻衣さん、楓さん、ひまりさんの三人の娘がいる。現在、ひまりさんは中学二年生。少年会岡田道弘隊の隊長を務め、この春の「練成会・総会」には、同級生ら8人と共に参加した。「たくさんの友達と参加する方が絶対に楽しいから」と、そう話すひまりさん。夏の「こどもおちばがえり」にも、たくさんの友達を誘って参加しているが、彼女には心強い味方がいる。幼なじみの表良貴くん。良貴くんとは、幼稚園からの友達。「社交的で友達

子供たちの「にをいかけ」

道弘分教会所属 高野ひまりさん(13歳)



無意識かもしれないが、教会で育つ子供たちは、自分たちならではの「にをいかけ」に歩いている。

「派手ではないけど、こつこつと声をかけ続けて行事に参加してもらおう。そんな子供たちの行動は、間違いなく「にをいかけの姿だ」と思う」と知永子さん。そして、「将来的にも、大きな「にをいかけ」とつながるのでは」と話す。そんな知永子さんは、道弘分教会長夫人の淑子さんと、毎月、日を決めて「にをいかけ」に出ている。「親の背を見て子は育つ」と、ことわざにある。

教務報

立教177年7月

- 6日 おちば伏せ込み団参(午前中)
青年会ハートクリーン強調デー
7日 岡心勇隊奈良中和地区
8日 鼓笛隊練習日
9日 岡心勇隊五條橋本(あやの台)
10日 岡心勇隊八幡地区
11日 肥城会長就任奉告祭
12日 天神免会長就任奉告祭
13日 岡心勇隊大阪地区
14日 大教会伏せ込みひのきしん(道弘)
15日 鼓笛隊練習日
16日 大教会伏せ込みひのきしん(相嘉)
17日 事務局会議 祭典準備ひのきしん
18日 大教会伏せ込みひのきしん(表野)
19日 婦人会伏せ込みひのきしん
20日 大教会月次祭 役員会議
21日 婦人会話所ひのきしん
22日 ようぼく育成部会 少年会委員会
23日 教会活性支援部会 婦人会連絡会
24日 大教会伏せ込みひのきしん(東松浦)
25日 おちば伏せ込み団参(早朝)
26日 KOG係員お願いづとめ
27日 詰所運営委員会
28日 本部月次祭

- 26日 KOG特別ひのきしん
27日 こどもおちばがえり
28日 修養科修了者研修
29日 修養科修了者研修
30日 三日講習会II修了者(6月6~8日)
31日 警 固 田 原 久 代
三日講習会I修了者(6月13~15日)
東松浦大阪 池 田 友 子
東松浦大阪 竹 内 正 江
教養掛(7月)
貞 元 古 賀 文 博
第38回教人資格講習会前・中・後期修了者
(5月27日~6月10日)
伊 萬 里 藤 井 治 巳
修養科第873期修了者(3月27日)
須 光 光 武 大 和
修養科第875期修了者(5月27日)
飛 鳥 川 梶 原 津 和 子
武 生 水 塚 元 め ぐ み
別席願(5月16日~6月15日詰所受付分)
相 嘉 多 田 羅 あ き 子
東 松 浦 原 田 美 奈
西 北 小 川 一 江
おさづけの理拝戴願
(5月16日~6月15日詰所受付分)
忍 海 藏 田 恒 志 郎

家族みんなそろって おちば伏せ込み団参へ
今回は7月6日(日) 9月7日(日)
10時 集合/ひのきしん実動
12時 定時のおつとめ参拝
皆さんの参加をお待ちしています

訃報
葬儀は、森井道典・岡大教会役員齋主のもと、5月31日みたままつし、6月1日告別式が、眞澄分教会で執り行われた。4代会長として道の御用に歩まれた氏のご功績を称え、感謝と敬意を込めて弔意を表します。
明澄分教会4代会長
蛇山 貞子氏(90歳)
5月31日お出直し

子供の心に「信仰の種」を

少年会本部委員 宇野長生先生



私たちの信仰において、「おさしづ」に「一代は一代の理、二代は二代の理、代々続く生涯末代の理である」（明治22年1月29日）また、「さあ／＼続いてあつてこそ、道と言ふ。続かん事は道とは言わん。言えようまい」（明治39年5月21日）とのお言葉があります。この教えは生涯末代のものであり、世代を重ねることその理が深くなり、続いてこそ道であるとお教えいただいています。そして、続くというからには、親から子へ、子から孫へと伝えられる、縦の伝道が求められるのです。

さらに、「もつ道というは、小さい時から心写さにゃならん」（明治33年11月16日）との「おさしづ」もあります。子供は幼少のころに、私たち大人のさりげない言動や生活の態度を通して、さまざまなことを吸収し、学ぶものです。なので、日常の生活を通して信仰信念を子供たちに伝えるということが、非常に大切になってきます。

ようになることが理想であります」とお話しくださいました。その上で、「常に教えに照らして謙虚にわが身を振り返り、まず自らが教祖の親心を求めること」と「教祖の親心に抱かれてお連れ通りいただいている喜びを深めること」を、私たちが心掛けるべき点として挙げられ、「日々に味わう信仰の喜びを子供の心にしつかりと映し、教祖の親心の温もりを伝え、この道の素晴らしさを子供の心に植え付けていくことが何よりも大切な育成会員のつとめ」との思いを述べられました。

重点項目としては、「講習会、研修会を通じた育成者の成人」「教会おとまり会の実施」「支部ひのきしんへの親子参加」「『リトルマガジン』を子供たちへ」の四つを挙げています。

まずは、子供たちに信仰の姿を映していく私たち育成会員の成人のための、講習会や研修会を大いに活用していただきたいと思えます。これは、おちばや各教会、各地域などで開催されています。

この道の素晴らしさを子供たちに伝えるうえで、一番の場所は教会です。教会おとまり会は、子供たちに教会の雰囲気味わってもらい、この道を信仰する人の温かみや優しさを感じてもらおう絶好の機会です。子供の頃から「教会っていいな」「天理教っていいな」と感じ取ってもらうことができれば、このお道と子供たちは必ず繋がっていくと思えます。

また、支部活動のひのきしんへ親子で参加しましょうとの呼びかけは、親子で信仰実践を行いますよということですね。さまざまなお話を通して信仰を伝えることも大切ですが、一緒に体験すること、ひのきしんを通して、体を使わせていただいている喜び、親神様の守護への感謝の心を親子で感じることが、非常に大切なことです。ここでは、支部や地域の意味合いが大きいですが、もちろん各教会

物心がついて、年を重ねて世間に心を映してからは、信仰心が届きにくいということを教えていただいています。子供たちの成長に合わせながら、子供たちが自然に陽気ぐらしの教えを身につけることができるように導く。それが、私たち育成者の役割なのです。少年会員の育成を担う私たちにとって、信仰を子供たちに伝える上で大切なこと。それは、私たち自身が感じている信仰の喜びを伝えたいという信念です。そのためには、まず私たちが日々の生活の中で神様の御守護を肌身に感じ取り、その中から信仰の喜びを味わせていただくことが重要です。

そして、具体的に何をどのように伝えるのかを考えなければなりません。子供たちの成長に合わせて伝える側が心を使い、工夫をして、伝え続ける努力が欠かせません。そうすることで、子供たちの心に蒔いた「信仰の種」が、子供の成長と共に育っていくのです。



少年会本部では、子供たちに信仰を伝えていく上での具体的な方針として、「活動方針」や「重点項目」を毎年発表しています。本年の活動方針は、「ひのきしんの態度を映し、教えを実行する子供を育てよう」です。

今年の年頭幹部会の席上、この活動方針について真柱様は「子供を導く育成会員がひのきしんの態度に徹した神一条の日々を送って、親神様から頂戴する大きな喜び、すなわち陽気ぐらしの喜びの姿を子供たちに映し伝えて、教えを素直に実行する子供を育てよう」と申し合わせているのであります。「私たちの存在が手本となり、私たちの日々が格好の修理肥となって、子供たちが知らず知らずのうちに感化されて、理屈抜きに陽気ぐらしの喜びを体得してくれる」のひのきしんへの参加を、積極的に呼び掛けていただきたいと思います。

最後の『リトルマガジン』は、教内で唯一の子供を対象にした冊子です。楽しみながら信仰の素晴らしさに気付き、教えを身につけることができます。しかし、教会の方々と親御さんが手に取り、子供たちに渡していただかないと、なかなか読んでいただけません。そう考えると、ぜひ、『リトルマガジン』を子供たちに手渡ししていただきたいと思います。

何でもそうですが、手渡しですと顔を合わせますので、そこには会話が生まれます。また、顔を合わせると、親と子や、教会と子供を繋いでくれます。紙面にはおちばの内容なども掲載していますので、おちばと子供たちを繋ぐということにもなります。どうか、この『リトルマガジン』を大いに活用していただきたいと思えます。



本年も、「こどもおちばがえり」の開催が近づいてきました。この「こどもおちばがえり」は、少年会活動の頂点です。具体的には「全教会帰参を達成しよう」「初参加者をご守護いただく」と呼びかけ、全教からの帰参を推進するとともに、初参加者の増加に向けた一手一つの取り組みを目指します。

「こどもおちばがえり」には、さまざまなお話やドラマがあります。これは、おちばで開催しているからこそだと思いますが、今年も教祖は必ず、子供たち一人ひとりにドラマを用意してくださっていると思います。ぜひ、今年も「こどもおちばがえり」に、一人でも多くの子供たちを連れてお帰り頂きたいと思えます。

おぢば帰り団参 各地から続々と

年祭活動二年目の今年、大教会からの「おぢば帰り団参を各教会で実施」との打ち出しを受け、各教会では団参を計画し、実施している。5月にも、遠近を問わずさまざまな教会が団参。今回は、福岡県から帰られた、警固分教会を紹介する。

一手一つに初の単独団参

警固分教会

「警固分教会単独としての団参は、今回が初めて。そして、前会長も一緒におぢばに帰らせていただけた。本当にうれしい」

田原清明会長は、今回のおぢば帰り団参をそう振り返る。そして、少し興奮気味に「かぐらづとめもこの目で見させていただけたよ」と続けた。

警固分教会は今回、田原会長の登壇参列を機におぢば帰り団参を計画。

併せて、「今年94歳の前会長も共に連れて、おぢばへ帰らせていただく」と話がまとまった。

今回の団参には、合計11人が参加した。身上を通して少し体が不自由になった田原会長と、高齢の前会長を連れてのおぢば帰り。会長後継者の田原太郎さんは、「今回の



団参を打ち出したとき、皆さんが『それなら力を寄せよう』と立ち上がってくれた。年祭活動の旬に、さらなる一手一つの姿を見せていただいた」と振り返る。

おぢばに到着した皆さんに話を伺うと、口をついて出るのは、「教会としてまとまって帰らせていただけたことが、本当にうれしい」「暑くも寒くもない、ちょうど良い時期をお与えいただけました」「支え合っただけのおぢば帰りは、教会家族の姿だと思ふ」との喜びの声。そして、「二人でも多くのようぼく・信者を

お与えいただき、教会を賑やかにしたい」との、教祖百三十年祭へ向けての決意だった。

警固分教会では、毎月28日に「集いの日」を設けてにをいがけ活動を展開している。年祭へ向けての歩みを進めるいま、さらにおてふりや教理を深める勉強会に取り組んでいく。

今年も、互いの成人を目指し

「ようぼく成人講座」開催

教祖百三十年祭に向かう「三年千日」。ようぼく育成部（吉田政彦部長）では、ようぼく一人ひとりの成人を目指した年祭活動の柱の一つとして、「岡ようぼく成人講座」の開催を推し進めている。

年祭活動2年目の今年も、「おつとめを学ぼう」「おさづけを取り次ごう」「みかぐらうたに親しもう」をテーマに、各教会で順次開催。そんな中、眞世分教会（森井道典会長）では、5月と6月の祭典日に合わせて、「成人講座」を開催した。

まず、5月の祭典後には「おさづけを取り次ごう」をテーマに、谷川清彦講師（岡道分教会会長）を迎えて開催。体験談を交えながら進められる教理の説明に、受講者は真剣そのもの。おさづけを取り次ぐことの重要性を再確認し、講座の最後にはお互いにおさづけの取り次ぎを行った。

受講者の中には、「これまで、どう取り次げばいいかわからなかった」「おさづけの理を拝戴してから、一度も取り次いだことが無い」という人も。しかし、講師の丁寧な説明を通して理解を深め、「おさづけが取り次げ

るようになった」という。

また、6月3日には芝田眞一講師（南阿太分教会長）を迎えて、「おつとめを学ぼう」を

開催した。

芝田講師はまず、月次祭でつとめるおつとめの意味や大切さについて、分かりやすく解説。さらに、ビデオを通して鳴り物（打ち物）の扱い方などを説明し、実際に鳴物を手にとって練習（写真）。リズムを合わせることに重点を置きながら、繰り返し練習を進めた。



立教177年「ようぼく成人講座」年間予定

※開催済み会場も含む

【おつとめを学ぼう】			【みかぐらうたに親しもう】			【おさづけを取り次ごう】		
開催日	教会	講師	開催日	教会	講師	開催日	教会	講師
2月12日	大和二見	芝田 真一	8月10日	白石町	古賀 文博	7月16日	岡 垣	岡橋 岩男
3月 2日	岡 村	出口 和史	10日	岡 瀧	蓮池 弘之	9月11日	伊萬里	未 定
16日	忍 海	蓮池恵理子				12月14日	岡 村	未 定
5月 1日	西 肥	光武 松市						
18日	飛鳥川	津田 進						
6月 3日	眞 世	芝田 真一						
15日	警 固	藤本 健二						
16日	北松浦	大野 真也						
7月 6日	南阿太	森井 幸子						

学生生徒修養会・高校の部

共に笑い、
共に涙を流し、
共に学び合う……
おぢばで出逢う
大切な仲間がいる——。

期間／8月9日（土）～15日（金）

内容／教理に関するレクチャー、おてふり、鳴物練習
ひのきしん、にをいがけ、グループワーク など

対象／高等学校に在学し、全期間受講できる者

申込／願書受付期間は7月25日（金）までです

※詳しくは、岡学生担当委員長 出口浩和 まで

☎0744-54-2174（飛鳥川分教会）

第15回生活復興ひのきしん隊報告



今回は、2会場同時進行という、初の試みに挑戦。より多くの方々と共に、楽しいひと時を過ごしました。

今年、ようぼくの集い、婦人会本部の委員部長講習会があって、昨年のように7回も出動できない。それもあってと思われるが、2月に続く今年2回目の出動である第15回隊には、47名の方々が参加くださった。日程は5月28、29日。両日とも参加者を二つのグループに分け、二カ所の仮設住宅を同時に訪問する形を取った。

これは初めての企画であり、忙しい日程となったが、より大勢の仮設の方々喜んでくれた。但し、参加者の意見としては、第一の目的である仮設の方々とのふれあいを考えると、交代してゆっくり交流する時間を持つた方が、という人も有り、今後の検討材料となった。

内容は毎回ほぼ同じだが、おちば出発、おちば帰着を基本に、参加者自身の成人の場となるよう取り組んでいる。併せて、お道以外の方の参加も受け入れ、活動を通してお道の教えを理解してもらえらる場ともなっている。

*次回は、8月26日夜出発、29日夕帰着予定です。手続きの都合上、出来るだけ7月中にご連絡ください。(担当:奥村孝 08047796099) 大勢の方のご参加をお待ちしております。



全員で記念撮影(宿营地横の公園で)



5月28日、小池第三仮設住宅で



5月28日、小池小草仮設住宅で

「私たちは、心待ちにしています」と



5月29日、大鹿仮設住宅で



5月28日、小池小草仮設住宅で



5月8日、大教会の夕づとめ中に、一人の来訪者が。南相馬市鹿島区の小池第三仮設に住む田中俊博さん(写真左)。関西へ旅行で来た機会に、わざわざ岡大教会まで足を伸ばしてくださいました。

「心を込めて料理を作って下さり、みんな本当に喜んでます」と、田中さんは何度もお辞儀を。「こんな事を言つと、遠方からきてくださるみなさんには大変ご負担をおかけしますが、仮設に住んでいる私達は、本当に楽しみにして、心待ちにしているのです」と。その言葉に應對した吉田陽子委員長(岡大教会復興支援委員会)は、熱い思いが胸に込み上げてきた。この方は、訪問の当日、お礼にと志を届けて下さった方もあった。そして、本当に心から喜んでもらった事を、親神様・教祖、そして関係者全員にお礼申し上げた。

KOGに向けて いよいよ準備スタート

立教177年の「こどもおぢばがえり」。今年も大教会では、詰所を会場に大規模な受け入れが予定されている。

大教会では毎年、「こどもおぢばがえり」の期間を通し約1,200人が参加。また、「子供たちに笑顔届けよう」と、毎日、約100人のひのきしん者によって受け入れ態勢が整えられている。

例年、会場準備を始め出すのは6月の半ば。開幕を間近に控える7月は、受け入れ準備の追い込みの時期となる。なかでも「ふれあい広場」などの設置は大掛かりなもので、連日、有志によるひのきしんの手で会場の設営が進められる。

現在進められているのは、名物の、ジャンボ滑り台。この滑り台は、5年前の立教172年に、今の形に改修。立教174年



にイラストをリニューアル。今回、2度目のリニューアルのため、表面のコーティングとペンキを削り取り、新しい滑り台への準備が進められている。今年は「ふれあい広場」もリニューアル予定。子供たちの笑顔のために、最高の受け入れ準備を目指す

おぢばで学ぶ 修養科第875期より

私の修養生活



梶原 津和子さん
飛鳥川分教会所属

信仰して23年が過ぎましたが、親神様、先祖の話が心に治まっていなかったため、何事も喜べるまでには成人しておりませんでした。今回は、「長女と次女に、相応しい方との御縁を頂けるように」との思いから、修養科を志願。その為には、母親として、また妻として心を入れ替え、心遣いの切り替えが出来るように努めようと思いました。

修養科に行かせて頂く事について、主人や子供の反対はありませんでした。初めの一カ月は、慣れない詰所での生活や、「二番組係」との大役を頂いたことなどから、精神的な疲れを感じていました。そのため、修養科に来たことを喜ばず、後悔する日が続きました。そんな私に親神様は、私の体にお手入れをくださいました。

修養科では、さまざまな感話を聞かせて頂き、感動したり泣いたり、目まぐるしく一

日が過ぎていきました。後半に近づくにつれ、「主

人、子供が喜んで送り出してくれた事に、何か大きな成果を持って帰らなければ」との思いから、私自身の心も少しずつ変わるようになりました。

今までの私には、女性として低い心、優しい心、人に合わせる心、喜ぶ心などが足りていませんでした。しかし、修養科を志願して多くの人と出会い、また、快く送り出してくれた主人への感謝の気持ちから、不足心を持たない歩みを進めさせていただけたように思います。

修了後は、南相馬市への「生活復興ひのきしん隊」に参加させていただきました。ハードスケジュールの中でしたが、仮設住宅で生活しておられる方々に喜んで頂きたいという思いで、精いっぱい務めさせていただきました。そして、長年続けておられる「ひのきしん隊」のスタッフの方々の姿勢を目の当たりにし、心から感激しました。

これからは、布教所、所属の教会、大教会と、しっかりとつながらせていきたいと思えます。また、私の家族も共々に教会へ心をなげ、未代までも信仰を続けさせていただけられるように努めます。今回は、大変お世話になり、ありがとうございました。

5月の「おぢば伏せ込み団参」

夏に向けて、暑さの増す6月の「おぢば伏せ込み団参」。本部会議所周辺の除草作業をさせていただきました。この日、参加して下さったのは49人。ひのきしん後は、定時のおつとめに参拝しました。



※おぢばで勤務されている方や、管内の学生さん！ぜひ参加してください。

教会長登殿参列

5月月次祭



後列) 東志免/東水町/鳥飼/西新/鶴城/東鹿島/嘉殿/肥東/上橘
前列) 界澄/警固/表野/表田
合計13教会



■「おつとめ日」開催一覧■

▼開催日▼	▼開催会場▼
8月31日(日) ……呉服町分教会	
10月19日(日) ……松浦郷分教会	
10月30日(木) ……筑八分教会	
11月1日(土) ……岡谷分教会	
11月15日(土) ……岡瀧分教会	
11月29日(土) ……江北野分教会	岡垣分教会
11月30日(日) ……大博分教会	肥陽分教会
12月7日(日) ……表野分教会	眞世分教会

R177.5.22-23

婦人会

伏せ込みひのきしん

風薫る5月。さわやかな五月晴れのもと、共々に勇んでひのきしんをつとめさせていただきました。ありがとうございました。

担当係：吉田 百合子（東松浦）

参加者：奥村寿美恵（岡村）、山平ミヨ子（大空）、北島美佐子（界澄）
古賀 汀子（都渡城）、寺尾 菊代（東明実）、市丸 順子（肥城）
江里まゆみ（住之都）



今年も「おつとめ日」開催

婦人会岡支部

教祖にお喜びいただける成人を目指し

今年で、開催5年目となる「おつとめ日」。「教会を賑やかに」「教祖のお喜びいただける成人を」などの思いから、年々その内容充実に向けた取り組みが行われている。

開催当初は、婦人会員に参加を呼びかけ、とにかく開催を目指してきた「おつとめ日」。しかし、回数を重ねるごとに参加対象も広がり、い

までは青年会員や少年会員も参加。会場教会の会長さんも準備に率先して取り組み、まさに、会活動の「垣根」を越えたものとなっている。

そんな「おつとめ日」の参加者からは、「手のそろうおつとめに、涙が出た」「『おつとめ日』で友人と再会し、大教会のひのきしんに参加するようになった」などの反響が寄せられている。

成人を求め、歩みを進める旬。ぜひ、ご参加ください。

西北分へ、敷島大教会前会長・山田忠一先生お入り込み 教祖130年祭へ向け 大きな弾み!



西北分教会は5月18日、月次祭に合わせて、敷島大教会前会長の山田忠一先生にお入り込みいただきました。

当日は晴天に恵まれ、大勢の参拝者と共に勇んで月次祭をつとめさせていただきました。また、山田先生が「せっかくだからおつとめに出て、地方の芯をつとめさせてもらおうよ」と仰られ、ご本部の

祭典さながら、声高らかな「みかぐらうた」に、陽気なおつとめとなりました。

引き続き、山田先生よりお話を頂き、教祖のご苦労と親心に報いる道をお話しくださいました。また、西北分教会二代会長の森川清次先生が作詞した『心勇講の歌』にもふれ、敷島が教祖の「一の筆」としておぢばへ心をこめた事柄などをお話いただきました。

さらに、「一の筆は昔物語ではなく、心勇講のお互いは、おつとめ、おたすけ、おぢばへのつくし・はこびを熱心に、教祖にお喜びいただけるように勇んで通らせていただく」と述べられ、「創立百周年を迎えたいま、元一日の精神に立ち返り、親々の心に添う道を通っていたきたい」と、教祖百三十年祭へ向けての激励を頂きました。

祭典後は、山田先生と共に会食。参拝者に親しくお声をかけてくださり、歓迎の出しものでは時折、先生も歌やハーモニカで参加され、最後に『心勇講の歌』を全員で歌いました。

今回のお入り込みを通して、敷島につながる岡大教会であり、西北の一人ひとりであることを確認させていただきました。そして、年祭活動の後半は、後悔の無きように動いて、教祖にお喜び頂けるように、また、お入り込みを意義あらしめたいと思う次第です。

(文・森川祐三会長)

教祖130年祭へ向かう「三年千日」。青年会岡分会では、成人の歩みを進める上で5つの心定めを立て、活動を展開している。

今回は、その中の「3万人へにをいかけ」との心定めに向けて、独自のチラシを作成。その数の通り、3万部用意し、青年会員挙げての配布を目指す。

また、青年会では「海外拠点設立」を目指して、オーストラリア布教を展開中。そのため、内容は日本語と英語を表記し、国の内外を問わず、より幅広く活用できるようにしている。

この地球上には、さまざまな人が暮らしています。同じ地域で生活するお互いですが、いろいろな問題も起こってくるものです。価値観や、考え方の違いによるずれ違いもあるでしょう。言葉や文化、習慣の違いもお互いですが、さらにその距離が広がるかもしれません。

ぶどうを想像してください。一つひとつの実が優しく寄り添い、一つの房となっています。私たちは、何かしら人の手を借りて毎日過ごしています。その中でお互いを支え合い、理解を深めることで気持ちにゆとりができ、心が丸みを帯びていきます。また、身を寄せる拠り所があれば、人と人とのつながりも強くなります。自費を優先してしまいがちな昨今、私たち一人ひとりが、ぶどうのように丸い心でつながり合うことが、求められているのかもしれません。

We are different from one another living together on the earth. Because of that, we sometimes encounter problems, which may vary based on the degree of the differences in ways of thinking and sense of values. Problems may become more serious if the differences exist in languages, cultures, and traditions.

Here I want you to picture a bunch of grapes. Each of the grapes draws close to one another to make a bunch.

We lead our daily lives while receiving help from those around us. Thus, the moment we pay it forward and help one another, we can understand others better and feel at ease, thereby softening our minds. This practice of mutual help can become a dependable guide, which bonds us stronger. There is a tendency to think that all is well if the present is well for oneself alone. What we really need now is, however, to relate to one another with round minds just like grapes.

天理教 青年会岡分会

青年会岡分会でチラシを作成